

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：歩行者行動	
日付：11月 21日（土）曜日、セッション時間： 9:00 ～ 10:30	
司会者名（所属）： 有村 幹治（日本大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>従来、歩行者行動は計画学では主流の研究分野ではなかったように思える。しかし今後の低炭素な都市交通の構築に向けて、歩行者を中心に据えた魅力ある街づくりを進めるうえで、歩行者行動研究は重要な役割を果たすだろう。このセッションでは、歩行者行動モデル、歩行行動の多様性と幸福感、開発途上国における主観的な歩道空間の性能評価と、多岐にわたる研究が報告された。各研究のアプローチは異なるものの、客観的・演繹的に歩行者行動を再現可能なモデリング技法の開発と、歩行者の主観的幸福感及び異文化における歩行空間性能指標の開発は、相互に影響を与えるものと考えられる。</p>
	<p>(46) 谷上正晃 歩行者交通流におけるエントロピー増大傾向の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全歩行者群を認知して行動を決定する」モデル上の仮定は妥当だろうか？歩行者の限定合理性を加味したMASのようなモデルの方が現実をよく反映しているのではないだろうか。 ・ある特定の外部環境において精度が高いモデルよりも、多様な外部環境に対しての精度を保つモデルの方が使い勝手が良い場合もある。歩行者行動モデルの住み分けが将来発生するのではないだろうか。ご提案されたエントロピーモデルの強みを示すことが重要になるのではないだろうか。 ・モデルは「目的地に真っ直ぐ向かう」仮定。モデルを適用できる環境は限定されている。この仮定を工夫することで、ウインドショッピングや、街歩きのような探索行動を再現できないか。歩行空間の多様性を評価できないだろうか。
	<p>(47) 札本太一 歩行行動の多様性を用いた歩行環境の評価の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手を繋ぐ」等、歩行者の行動変化に注目したことはユニーク。 ・歩行者行動の多様性と空間の質、歩行者の幸福感が魅力ある歩行空間には必要不可欠。多様性と幸福感の計測方法はどうかあるべきだろうか。 ・アフォーダンス研究のように、「機能が空間に埋め込まれた」状況における歩行者の行動をより深く観察するアプローチにより、歩行空間施設の「機能」の多様性を把握できないだろうか。 ・従来、評価の試みがなされなかった「歩行行動の幸福感」に、もっと焦点を当てて研究することが、歩行者行動分野の研究において今後重要性が増すのではないだろうか。
	<p>48) Nursyamsu Hidayat , DETERMINATION OF FACTORS RELATED TO SIDEWALK PERFORMANCE BASED ON PEDESTRIAN PERCEPTION</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発途上国と先進国で歩行空間の概念や文化が異なる。研究対象とした歩行空間と市場が混然一体となった歩行空間の評価に関して、開発途上国独自の指標を作成すべきではないだろうか。 ・「沿道商店の存在」が、開発途上国都市の街路空間の魅力になっている。 ・多くの歩行者と商店が混在した途上国の歩行空間を調査するにあたり、この研究では、あくまでも歩行者の認識・主観に基づく分析を行っている。そのため、街路の防災機能等は、パフォーマンス要因の中には含まれていない。